

開講30周年記念 記念シンポジウム開催!



令和七年度 講座

「丹波学」

もっと知りたい 丹波の歴史を彩った人と城



申込
期間

令和7年
5月20日(火)~7月27日(日)

会場

丹波の森公苑 ホール

定員

200名

受講料

6,000円(講義録付、講義5回+記念シンポジウム)

※日程と内容は裏面をご覧ください

●お申し込み方法

下記、申込用紙に必要事項を記入の上、ご持参いただくか、郵送またはファックスでお申し込みください。
また、お申し込みフォーム(左下のQRコードにアクセス)からもお申込みいただけます。
電話での受付はしておりません。

※申込から2週間程度で受講決定通知と振込用紙を郵送します。

受講申込フォーム▶



●問い合わせ先

丹波の森公苑 事業推進部 文化振興課 講座「丹波学」係
〒669-3309 兵庫県丹波市柏原町柏原5600

電話番号: 0795-72-5170 ファックス: 0795-72-0899

主催: (公財)兵庫丹波の森協会 丹波の森公苑

令和7年度 講座「丹波学」受講申込書

令和7年 月 日

氏名			ふりがな		
住所	〒 -				
電話番号	() -		FAX	() -	

※ご記入いただいた個人情報は厳重に管理し、当事業のみで使用します。

令和7年度 講座「丹波学」 講義日程・内容

第1回 8月23日(土) 14:00~15:30	「明応の政変と丹波の勢力」 戦国時代が始まるきっかけになったのではないかと注目されている「明応の政変」。そして、それに先立つ「丹波国一揆」。これらに丹波の勢力がどのように関わっていたのかについて考えていきます。 講 師 古野 貢 氏 (武庫川女子大学 教授)
第2回 9月6日(土) 14:00~15:30	「南北朝内乱と丹波武士」 古代から中世に至るまで朝廷や鎌倉・室町幕府から重視された丹波。だからこそ中央の政治的影響を大きく受けた丹波の武将たち。そんな彼らが、政局が大きく動く南北朝内乱期をどのように生き抜いたのかを考えます。 講 師 生駒 孝臣 氏 (花園大学 准教授)
第3回 9月27日(土) 14:00~15:30	「丹波の戦国山城 黒井城と八上城」 戦国時代末期、織田軍に立ち向かった荻野氏と波多野氏。その居城で丹波の三大山城にも数えられる黒井城と八上城について、丹波地域の織豊系城郭と比較しながら、その石垣や縄張りの特徴等を考えていきます。 講 師 山上 雅弘 氏 (兵庫県立考古博物館 名誉学芸員)
開講30周年 記念シンポジウム 10月4日(土) ※開始 13:20 終了 15:35	「本能寺の変の真相に迫る ～光秀はなぜ信長を討ったのか～」 甲斐の武田氏を滅ぼし、まさに天下統一を成し遂げようとしていた信長。その織田軍の中で丹波を平定し、確固たる地位を築いた光秀。この2人の間に何があったのか。3名の専門家により、光秀が信長を討った真の動機に迫ります。 ■基調講演 (講師は下記の3名) ■パネルディスカッション コーディネーター 渡邊 大門 氏 (歴史と文化の研究所 代表取締役) パネリスト 福島 克彦 氏 (城郭談話会 会員) 天野 忠幸 氏 (天理大学 教授)
第4回 11月15日(土) 14:00~15:30	「織田軍団と対峙した丹波武士団」 一度は織田軍団を退却させた丹波武士団。明智軍による丹波攻略に対して波多野氏や赤井氏などの丹波国の武士団はどのように対峙したのか。また、彼らはどのようにして丹波で力を蓄えたのかを考えていきます。 講 師 秦野 裕介 氏 (立命館大学 授業担当講師)
第5回 12月13日(土) 14:00~15:30	「古文書から見る篠山藩政の動き」 古文書を通して篠山藩政を語ります。藩主の帰国の際には庄屋がこぞってお出迎えするなど、以外と近かった知られざる殿様と領民の関係。同時期の織田藩 (柏原藩) にも触れながら江戸期の丹波を見ていきます。 講 師 今井 進 氏 (丹波篠山市市史編纂委員会 委員長)